

筑波大学附属病院

日立社会連携教育研究センターの紹介と抱負



筑波大学附属病院
日立社会連携教育研究センター
センター長 小松 洋治

2012年4月、日立総合病院内に筑波大学附属病院日立社会連携教育研究センターが開設され、部長を拝命しました。前任地は、筑波メディカルセンター病院で、血管障害や神経外傷を中心に神経救急医療や地域連携に従事していました。

消化器内科を専門とする谷中昭典、腎臓内科を専門とする植田敦志と私の3名が日立総合病院スタッフとともに診療、教育、研究を行っています。今後、増員を予定しています。

当センターのミッションは、地域医療の推進と先端医工連携を実践することです。筑波大学が先駆的に取り組んでいる中核医療機関を活用した大学レベルの医療、教育・研修、臨床研究等の広域普及と大学によるキャリア支援を背景とした地域医療再生、新たな医療技術の開発を可能とする総合的な医療システム構築が任務です。

日立総合病院は、地域がんセンター、救命救急センター、災害拠点病院、臨床研修指定病院などの機能を持つ県北の中核病院です。日立製作所は日立医保健療圏に2つの総合病院、隣接する常陸太田・ひたちなか保健医療圏にも総合病院を運営するため地域医療シェアが大きく地域医療支援病院の条件達成に苦勞しています。このことは、すでに地域医療に相応の貢献をしている一方では、医療機関間の競争が少なかったことも意味しています。自院の強みと弱点を真摯に分析して、地域住民およびかかりつけ医、医療機関といった外部顧客から期待される病院像と、自身が希望する病院像を一致させていくことが必要であると考えています。

県北の医療資源は少ないものの水戸医療圏と連携しやすい地の利があります。地域全体をケアミックス医療機関と仮想できるような連携と役割分担で、持続発展可能な医療圏を実現したいと思います。大学での医療や教育に不足している予防、維持期や末期医療に応え得る医師の育成も責務であると考えています。筑波大学の豊富な資源と人材を活用することは、地域の医師やスタッフのキャリア支援に大いに役立つものです。

現在、震災で損傷した病院の発展的再生がすすめられています。2012年10月に運用を

開始した救命救急センター、2013年完成の診療棟に続いて、2015年度には地上10階地下2階、屋上ヘリポート、ハイブリッド手術室を完備した新本館が完成します。PETやダビンチを県内トップで導入した実績があります。ハードにみあうソフトを育てることに大学の一員として携わっていきたく思います。医学生や研修医に魅力ある病院となつてこそ、継続的な成長が望めます。

皆様のご支援のもとに、日立社会連携教育研究センターならびに県北医療の発展に努めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。



指導医のもとに執刀する研修医



日立総合病院スタッフとの
内視鏡カンファレンス